

第1回松山市コンパクトシティ推進協議会（議案要旨）

次第1 これまでの振り返り（資料1ページ）

松山市では、平成27年に「松山市立地適正化及び交通網形成検討協議会」を設置し、施策の検討を進め、平成30年9月に「市駅前広場改変構想」の公表、平成31年3月に「立地適正化計画改訂版」及び「地域公共交通網形成計画」を策定しています。

これらの計画に基づき、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを推進するため、令和元年7月から、協議会の名称を「松山市コンパクトシティ推進協議会」に変更し、新たな体制に再編を行いました。

このうち「市駅前広場改変構想」は、郊外電車と路面電車の近接化、バスターミナル集約（東側）、タクシー・一般車乗降場集約（西側）、交流広場の拡大を進める方針が決定しています。

今回の議題は、本協議会の下部組織である「松山市駅前改変検討部会」で、過去2回議論した結果をお諮りするものです。

第1号議案(次第2) 改変に伴う交通影響の検証と対策（資料2～5ページ）

改変に伴い「千舟町通り」に交通が集中することが予想されるため、現状把握を目的に、昨年度、市駅周辺の主要交差点28箇所で交通量調査を実施しました。

この調査結果を用いて、交通シミュレーションによる渋滞予測を行った結果、現状のままロータリー内の一般車を通行止めにした場合、主に「千舟町通り」において、最大で約450mの渋滞が発生する予測結果となっています。

そのため「千舟町通り」の混雑緩和に向けた対策案として、1) 路線バスルートの変更と、2) 信号制御時間の変更を行う予定で、現在、バス事業者や警察と協議を進めています。また、路線バスルートの変更に伴い、いよてつ高島屋の東側にバス乗降場を設置します。工事着工は年明けを予定しています。

上記対策を講じた上で、再度、交通シミュレーションを行った結果、平日に関しては、「千舟町通り」の渋滞が緩和され、「中之川通り」の渋滞も発生していないことが確認されました。しかし、休日に関しては、市駅西駐車場へ向かう一般車両が平日より多く、市駅西駐車場への北側からの入庫車両が南側の「中之川通り」側へ分散されることも考えられ、「中之川通り」の交通負荷が平日より多くなることが想定されます。市駅西駐車場からの出庫への影響も考えられるため、今後行う予定である社会実験で渋滞状況を注視します。

これらの進め方は、来年度から対策を段階的に実施し、改変後の交通状況へ徐々に近づけていくことを考えています。

第2号議案(次第3) 社会実験の計画（資料6～8ページ）

広場改変時の交通影響は、交通シミュレーションによる机上の解析に加え、実空間での検証を行い課題の抽出や評価を行う必要があるため、「社会実験」を行います。

令和3年11月中の2週間での実施を予定し、交通影響と賑わい創出の2つの視点で評価します。

このうち、「交通影響の検証を目的とした社会実験」を12日間、「賑わい創出の検証を目的とした社会実験」を、土日を含む2日間で、それぞれ実施する予定です。

実験時には、交通実態調査やアンケート調査など各種調査を行う予定としています。

第3号議案(次第4) 今後の進め方（資料9ページ）

松山市駅は、1日3万人を超える乗降客が行き交う、市内最大の交通結節点であるため、日常的に市駅前広場や沿道施設などを利用している方や買い物などで休日に来られる方など、それぞれの特性に合った広報活動を進めていきたいと考えています。

具体的には、案内チラシをフリーペーパーへ折込み配布する方法や、周辺地域へのポスター掲示、ホームページやSNSの活用に加え、周辺エリアに事前周知のための看板設置なども行う予定です。